田中千禾夫 略年譜

―演劇作品の上演を主とした略年譜

田中千禾夫（たなか・ちかお）一九〇五～一九九五　劇作家・演出家。岸田國士、岩田豊雄らの指導を受け、昭和七年、第一次『劇作』の同人となり、処女作の『おふくろ』が出世作となる。『教育』『マリアの首』ほかで読売文学賞など受賞多数。劇作・演出活動と共に『物言う術』『劇的文体論序説』などの著作、文学座創立時の研究所主事をはじめ、戦後の俳優座養成所、桐朋学園大学短期大学部芸術科演劇専攻などで俳優教育にも熱心に取り組み、戦後の新劇界を舞台と理論で牽引した。

明治	
三十八（一九〇五）	10月10日、長崎市に生まれる
大正	
七（一九一八）	長崎師範学校附属小学校を経て、県立長崎中学校に入学
十二（一九二三）	慶応義塾大学仏文科予科に入学
十三（一九二四）	築地小劇場の影響を受けた慶応の学生劇団に参加
二（一九二七）	予科3年在学中に、岸田國士、岩田豊雄、関口次郎らが始めた新劇研究所の研究生となる。この研究所を田中は岩田のI、岸田のK、関口のSをとって、X（イクス）研究所と名付ける
五（一九三〇）	慶應義塾大学仏文科を卒業
七（一九三二）	第一次《劇作》創刊、同人に加入し、編集実務を担当。レオン・ブレモン作『物言ふ術と演劇』を岸田國士に勧められて翻訳、アンドレ・ド・ロルド作『屍台の上』翻訳。劇評「東京座（夜打つ太鼓）」《劇作》8月号。「俊子」《劇作》11月号「母の席」と「唯ひとりの人」（戯曲評）を高野多可雄の筆名で、「築地座十一月」の劇評と『「身振り」研究覚書 Le Geste:Charles Hacks.による』を本名で《劇作》1月号。「岩田豊雄氏の初登場」（高野多可雄の筆名）《劇作》2月号。**処女戯曲『おふくろ』**（川口一郎演出、築地座）初演。『出離』翻訳、《劇作》8・10月号。アンドレ・ド・ロルド作『罪免れし女』翻訳、《劇作》12月号
八（一九三三）	**『縄―対話体による一小曲』**、『巡礼』翻案（シャルル・ヴィルドラック作）《劇作》9月号。新進女流劇作家の辻村澄江と結婚。ラジオドラマ『道』《劇作》12月号
九（一九三四）	**『橘体操女塾裏―きよ女に捧ぐる即興』**（演出、築地座）。**『僕亭先生の鞄持』**（堀江史朗演出、京都エラン・ヴィタール小劇場、森本薫出演）。PCL映画製作所に入所（ほどなく辞職）
十（一九三五）	**『風塵』**《文芸》9月号
十一（一九三六）	
十二（一九三七）	《劇作》1月号よりベルラン著『メロドラマの起源』を翻訳連載。文学座創立に《劇作》派同人とともに参加
十三（一九三八）	岸田國士の推薦により明治大学文芸科講師として週1回「科白原理」を講義。文学座研究所では主事として『物云う術』開講。文学座演出部に所属。朗読形式**『おふくろ』**（川口一郎演出、杉村春子主演）
十四（一九三九）	『蒼海亭』（原題『マリウス』マルセル・パニョル作、岩田豊雄と共同演出、中山昌作の芸名で出演、文学座）。『かりそめになすな恋（序幕）』（演出、ミュッセ作、文学座勉強会）。『はる・あき』（演出、田中澄江作、文学座）。『警鐘』（演出、カフマン作、文学座勉強会）、『貞操』（演出、菊池寛作、文学座勉強会）
十五（一九四〇）	『炬火おくり』（演出、ポール・エルヴィユ作、文学座）。『ファニー』（里見弴演出、パニョル作、文学座、ブラン役で出演）。《劇作》廃刊
十六（一九四一）	『七福神』（岩田豊雄演出、武者小路実篤作、文学座、福禄寿役で出演）。**『巡礼』**（作・演出、ヴィルドラック原作、文学座勉強会）。『おふくろ』（演出、北条秀司作、文学座初の移動演劇隊公演一演目）
十七（一九四二）	『黄塵』（演出、上田広作、伊賀山昌三脚色、森本薫補訂、王治安役で出演）。『落葉松』（演出、松岡力雄作、文学座勉強会）
十八（一九四三）	『お豊さん』（演出、渡辺喜恵子作、戌井市郎脚色、文学座）。『修身年金』（演出、デルヴィリエ作、文学座）。『太平洋の嵐』（演出、八木隆一郎作、文学座勉強会）
十九（一九四四）	一家で両親の故郷、鳥取市に疎開。袋川河畔の海軍カッター造舟工場の造舟工を志願

二十（一九四五）

在郷軍人としての訓練を受ける
8月9日、長崎に原爆が投下される

二十一（一九四六）

『**ぽーぶる・きくた**』《三田文学》5月号発表。松江の映画館みずほ劇場の演劇研究所で指導と演出

二十三（一九四八）

『物言ふ術』《劇作》1年連載。『**雲の涯**』（岩田豊雄演出、文学座）。『**修羅**』《悲劇喜劇》5月号。『**女猿**』（戌井市郎演出、文学座勉強会）

ラジオドラマ『こだま』名古屋放送局放送、『今は昔・葬祭入門』大阪放送局放送。『**おふくろ**』（青山杉作演出、俳優座）。『お国と五平』（演出、谷崎潤一郎作、関西歌舞伎）。『瀬戸内海の子供ら』（演出、小山祐士作、青猫座）。『次郎吉懺悔』（演出、鈴木泉三郎作、関西歌舞伎）。『田中千禾夫戯曲集・雲の涯』『物言ふ術 ―俳優術第一歩』世界文学社刊。『マリアへのお告げ』（演出、クローデル作、青猫座）

二十四（一九四九）

『お艶殺し』（演出、谷崎潤一郎作、関西歌舞伎）。ラジオドラマ『とら』大阪放送局放送。『**花子**』（俳優座創作劇研究会、俳優座で初の自作演出）。『黒い太陽』（演出、穂積純太郎作、新国劇）、『厨房』（演出、三国一朗作、青猫座）。『川千鳥』（演出、田中澄江脚色、関西歌舞伎）。『幽霊』（演出、イプセン作、くるみ座）

二十五（一九五〇）

千田是也らに請われて俳優座文芸演出部員に。『おぼろ駕籠』（演出、大佛次郎作、関西歌舞伎）。『聖者の泉』（演出、シング作、青猫座）。『**おふくろ**』（三越現代劇第一回公演、川口一郎演出、田村秋子主演）。『沢氏の二人娘』（演出、岸田國士作、くるみ座）。『**花子**』（演出、くるみ座）。『めし』（演出、田中澄江脚色、新潮）。『**女猿**』（演出、俳優座）。『**どろ―辰己柳太郎のために**』（演出、新国劇）。『囲まれた女』（演出、田口竹男作、くるみ座）。『春のめざめ』（演出、ヴェデキント作、青猫座）。『北へ帰る』（演出、菅原卓作、くるみ座）。『わが家は愉し』（演出、田中澄江作、新潮）。『麺麭屋文六の思案』『村で一番の栗の木』（演出、岸田國士作、くるみ座）

二十六（一九五一）

『**京時雨濡れ羽双鳥**』（演出、新派）。『新劇手帖』（内村直也共著）刊行。『現代の英雄』（演出、福田恆存作、俳優座）。『五十一番目のザボン』（脚色・演出、興田準一作、俳優座こどもの劇場）。『たつのおとしご』（演出、真船豊作、くるみ座）。ラジオドラマ『ただほど高いもの』大阪放送局放送

二十七（一九五二年）

茂山忠三郎のもと狂言を習う。『誤解』（演出、カミュ作、くるみ座）。ラジオドラマ『昔気質のばばさま』大阪朝日放送局放送。『笛』『四つの危機』（演出、大阪放送劇団）。大阪の中央放送局に放送劇を書き下ろし、劇団の俳優養成にも任じた

二十八（一九五三年）

《新劇》創刊、実質的編集長に。『女の平和』（台本補綴、青山杉作演出、俳優座）。『**京時雨濡れ羽ふた鳥**』（辻正雄演出、青猫座）。ラジオドラマ『野に下る右近』東京放送局、『海の星＝ひとで』大阪放送局。『**教育**』『**笛**』（千田是也演出、俳優座）。『物言ふ術の準備』未来社刊

二十九（一九五四）

『教育』などで読売文学賞受賞。岩波書店の文学講座に「戯曲の構造」を執筆。『幸運の葉書 ―別の名「女豚S」』『**骨を抱いて**』（毛利菊枝演出、くるみ座）。『自由の彼方で』（演出、椎名麟三作、同人会）。『田中千禾夫一幕劇集』未来社刊。『**三ちゃんと梨枝**』（島田安行演出、俳優座）。『**赤い羽根**』（俳優座）。『笑わない青春の記』（演出、西村滋作、村田修子脚色、同人会）。『町人貴族』（演出、モリエール作、俳優座）。『新劇辞典』編集・弘文社刊

三十（一九五五）

『**肥前風土記**』（演出、文学座）文化庁芸術祭創作劇賞受賞。『**死に水を下から取った話**』（島田安行演出、俳優座）

三十一（一九五六）

『タルチェフ』（演出、モリエール作、俳優座）。『春を待つ女たち』（演出、田中澄江作、新派）。『班女』（演出、三島由紀夫作、同人会）。『大番』（演出、獅子文六・田中澄江脚色、芸術座）。イプセン作『人形の家』をNHK放送劇用に脚色。『謡曲現代語訳集』（河出書房刊）に『谷行』『高砂』等を現代語訳。二期会のオペラ研究生の演技訓練にあたる。『**火の山 ―別の名「女狐S」**』

三十二（一九五七）

『つづみの女』（演出、田中澄江作、俳優座）、『血の花』（『イエルマ』改題、演出、ロルカ作、俳優座）

三十三（一九五八）

『愛と死との戯れ』（演出、ロラン作、俳優座）。『**マリアの首 ―幻に長崎を想う曲―**』（島田安行共同演出、新人会）。『親和力』（演出、遠藤周作作、同人会）。『がらしあ・細川夫人』（演出、田中澄江作、文学座）。『沢氏の二人娘』（演出、岸田國士作、俳優座）。『**千鳥 ―幕ある如く無き如く**』（千田是也演出、俳優座）。『**寝物語**』（荒川哲生演出、文学座アトリエ）。『マリアの首』『千鳥』で岸田演劇賞、週刊読売戯曲賞受賞

三十四（一九五九）

34年度文部省芸術選奨受賞。『**8段 ―白菊匂う**』（青年座）。『鳥には翼がない』（演出、田中澄江作、俳優座）。オペラ『ホフマン物語』（演出、二期会）。唯一のテレビドラマ『ゆび』放映（名古屋CBC）。『田中千禾夫戯曲全集（全7巻）白水社刊

三十五（一九六〇）

『**伐る勿れ樹を**』（島田安行共同演出、新人会）。『夜の祭典』（演出、椎名麟三作、俳優座）。『**野に下る右近**』（俳優小劇場）。バレエ『マリアの首』（演出、福田バレエ団）

三十六（一九六一）

『**鈍琢亭の最期 ―生理的幕とエピローグ**』（千田是也演出、俳優座）。『**月明らかに星稀に**』（新人会）。新作文楽『**ささやきの竹 ―お伽草子より**』。俳優座演劇研究所研究部会の声楽講習会主宰

三十七（一九六二）

『**大姫島の理髪師**』（演出、俳優座）。**文楽『舞い茸**』（文楽協会大阪）。『つづみの女』（演出、田中澄江作、新派）。『**判事**』（俳優小劇場）。『**とら**』（早野寿郎演出、小沢昭一独り芝居、俳優小劇場）。『新劇鑑賞入門』大阪創元社刊

三十八（一九六三）

『橋の女』（演出、田中澄江作、新派）。『女舞い』（演出、円地文子原作、新派）。『**水 ―人工中絶問題についての一考察**』（島田安行演出、俳優座）。『**さすらい ―紙芝居のアルファ場**』（新人会）。放送劇『漫才師と切支丹』『心臓にて』（NHK）で芸術祭奨励賞受賞

三十九（一九六四）

四十（一九六五）
『うず汐』（演出、田中澄江脚色、大阪新春座）。『作者を探す六人の登場人物』（演出、ピランデルロ作、新人会）。『夜の河』（演出、田中澄江作、新派）。『奢りの岬』（演出、人見嘉久彦作、青年座）

四十一（一九六六）
『**肥前風土記**』（文学座初演の改訂版、青年座）。桐朋学園大学短期大学部に演劇専攻、専任教授に。新訂版『物言う術』白水社刊。『**國語 ―私の家庭教師**』（俳優座）。ラジオドラマ『アブストラクト』BK放送、芸術祭奨励賞受賞

四十二（一九六七）
『**心理 ―いざ物語らばや祭を**』（早野寿郎共同演出、俳優小劇場）。『動物園作戦』（演出、山崎正和作、新人会）。『**むしう・とがきの悪足掻き ―別の名「化石になった自転車」**』（女三人の会）。『**本朝琅霊来**』（俳優小劇場）

四十三（一九六八）
『**あらいはくせき**』（演出、俳優座）。『ペール・ギュント』（仏語から翻訳・演出、イプセン作、新人会・青年座・俳優小劇場）。『萩の乱れ』（演出、田中澄江作、新派）

四十四（一九六九）
『**自由少年 ―花の幻―**』（千田是也演出、俳優座）

四十五（一九七〇）
『**巴鼻庵物狂い**』（演出、雲）。『**冒険・藤堂作右衛門の**』（俳優座）

四十六（一九七一）
『**夕餉すみ候や**』（岩田豊雄演出、雲・岩田豊雄記念公演）。『**いのちの窓**』（兆）

四十七（一九七二）
『随想集・無駄と真実』講談社刊。『**時間という汽車**』『**八百屋お七牢日記**』（演出、俳優座）

四十九（一九七四）
『悪霊』（木村鈴吉共同演出、ドストエフスキー原作・椎名麟三作、青年座＋たねの会）。『**鍵の下**』（演出、俳優座）。紫綬褒章受章

五十（一九七五）
『**むしう・とがき ―別の名「あたしは髪をながくする」**』（窓の会）。『子供の仕事』（演出、富岡多恵子作、俳優座）

五十二（一九七七）
『劇的文体論序説・上』白水社刊

五十三（一九七八）
『自伝抄・井蛙の弁』読売新聞社刊。『劇的文体論序説・上下』で毎日出版文化賞受賞

五十四（一九七九）
『**右往左往 ―夢の懸け橋**』（演出、俳優座）。日本芸術院「恩賜賞」受賞

五十五（一九八〇）
『隅田川・柿山伏』学習研究社刊

五十六（一九八一）
『神の汚れた手』（脚色・演出、曽野綾子原作、俳優座）。日本芸術院会員となる

五十七（一九八二）
『旅は道連れ』（田中澄江共著）朝日新聞社刊。勲三等瑞宝章受章

五十八（一九八三）
『**こころとおもう**』（演出、俳優座）

五十九（一九八四）
『**貴族の階段 ―武田泰淳作・同名の小説より**』（千田是也演出、俳優座）

六十（一九八五）
『**ばさら ―童婆とむらさき露くさと老爺**』《新劇》11月号

六十二（一九八七）
『**三途川四号電話ボクス**』《新劇》3月号

六十三（一九八八）
『**雑兵物語**』《新劇》5月号。洗礼名、フランシスコ・ザビエルとしてカトリック入信

一（一九八九）
『**雑兵物語**』（山内泰雄構成・演出、桐朋学園大学短期大学部芸術科演劇専攻22期生卒業公演）。『**武州仙川桐朋寺縁起**』《新劇》3月号。桐朋学園大学短期大学部名誉教授

五（一九九三）
米寿を祝い、桐朋学園大学短期大学部芸術科演劇専攻卒業生有志により『8段抄』（岩浅豊明演出）上演

七（一九九五）
卒寿記念として桐朋学園大学短期大学部芸術科演劇専攻卒業生有志により放送劇『アブストラクト』（岩浅豊明演出）で初演。11月29日午前3時32分、中野総合病院にて心不全で逝去。享年90

八（一九九六）
『アブストラクト』（岩浅豊明演出、田中千禾夫追悼と田中澄江を励ます会・ヨメナ座）

九（一九九七）
『夫婦で六十二年』（田中澄江共著）講談社刊。田中千禾夫文学碑が長崎・浦上天主堂門前に建立

十二（二〇〇〇）
田中澄江逝去。享年91

新国立劇場での田中作品の上演

『マリアの首 ―幻に長崎を想う曲―』（2017年 演出：小川絵梨子）

写真：谷古宇正彦

※参考資料：『祈りの懸け橋 評伝田中千禾夫』（石澤秀二著、白水社）、『夫婦で六十二年』（田中千禾夫・田中澄江著、講談社）ほか演劇公演プログラムなど

■太字は田中千禾夫自身による創作戯曲